

1 日本語で自己紹介をする

1 次の会話を聞いてみましょう。



ここでは、どんなインターアクションがいいかを考えてもらうために、同じ場面、同じ人物による会話 A（うまくいかなかった例）と会話 B（うまくいった例）の 2 つの例を提示しています。

(1) 【場面】を理解する

- 学習者に【場面】を読ませて、誰（＝アンナ）が、どこ（＝地域の国際交流パーティー）で、何をしている状況（＝近くにいた日本人の女の人に話しかける）なのかを学習者に正確に理解させます。
- 必要に応じて、「アンナさんはどこにいますか」などの質問をして、学習者の理解を確認するといでしょう。

(2) 会話 A・会話 B を聞く

- まず、会話 A を聞きます。ここでは、会話の SCRIPT を読んだだけではわからない話し方（話すスピード、トーンなど）にも注目してもらうため、1 回目は会話の SCRIPT は見ないように学習者に指示します。ただし、p. 6 の 3 枚の絵は内容の理解を助けるので、必要に応じて見てもいいことにします。
- 次に、会話 B を聞きます。会話 B は会話 A とまったく同じ登場人物と同じ場面です。ただし、会話 B はモデル会話ではなく、あくまでも 1 つの例として考えてください。（会話 B の会話 SCRIPT と英語の翻訳は別冊にあります。）

(3) ペアやグループで気づいた点を話しあう

- 学習者が気づいた会話 A・会話 B の違いを p. 7 の記入欄（「会話 A・会話 B を聞いて、気づいたことを書いてください。」）に書いてもらいます。まず、各自で考えてもらい、その後、ペア／グループで気づいた点を話しあいます。
- 日本語で表現するのが難しい場合は、まず、母語で書いてもらってもいいでしょう。
- 気づいた点が出てこない場合は、会話 A の SCRIPT の気になる部分に線を引き、「なぜ気になるのか」「自分だったらどのようにするか」などについて考えてもらうと、具体的な点が出てきやすくなります。
- ここでは、次のような点に学習者が気づくことが期待されます。

会話 A の問題点	会話 B のいいところ
<ul style="list-style-type: none"> ・「あなた」という表現を使っている。(失礼になるのではないだろうか。) ・沈黙が多く、会話が弾んでいない。 ・名前を聞いたあとは、陽子しか質問をしていない。 ・アンナの声のトーンが暗い。 ・アンナの反応が薄い。 (例：あいづちが少ない。／陽子の質問に短く答えるだけで、話が広がらない。) ・沈黙のあと、「じゃ、またね」とアンナが唐突に別れを切り出している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・沈黙が少なく、話が弾んでいる。 ・2人とも楽しそうに話している。 ・アンナのあいづちの仕方、質問の答え方が自然。反応がいい。 ・アンナからも積極的に質問をして、話を広げようとしている。 ・わからない言葉を適切に聞き返している。 (例：ジッカ) ・お礼を言って、インターアクションを終えている。

(4) ペアやグループで気づいた点をクラス全体で出しあう

- 各ペア／グループの代表者に、気づいた点を 1 つずつ挙げてもらいます。
- 「会話 B の会話のほうがいい」など、大まかな指摘しかなかった場合、「どうしてそう思いますか」などと質問し、具体的な点を出すよう促します。
- ここでは気づきを促し、PART 2 以降の学習への動機を高めるのがねらいです。上に挙げた（気づきが期待される）点のすべてを学習者から出してもらう必要はありません。また、「会話 A の〇〇のほうがいい」など、教師が期待していない答えが出てくることもあります。学習者に自由に意見を述べてもらうようにしましょう。
- PART 2 <インターアクションのポイント>が終わったあとに、もう一度会話 A と会話 B を聞くと、インターアクションのポイントが明確になり、効果的です。